

豊かな自然の恵みの中で、歴史や文化とふれあえる街。

豊 のんほい広場 橋

手筒花火

年間4千人以上の花火客が手筒花火を掲げる豊橋。市内各所で行われる祭りなどで掲げられます。

豊橋カレーうどん

オドロキの二層構造で、麺にもカレーにも食べ方にもアツアツの郷土愛が詰まっています。



吉田城

豊橋市民のシンボル。豊臣秀吉時代には姫路城を作った池田輝政が改修したことで知られるお城です。



二川宿 本陣資料館

江戸時代の交通と地域の歴史文化というコンセプトのもと、「東海道」「二川宿」「本陣」という3つのテーマで展示。



豊橋総合動植物公園 のんほいパーク

野生に近い環境を目指した動物園を中心に、植物園、遊園地、自然史博物館で構成され、約40haの広大な敷地を持つ総合公園です。

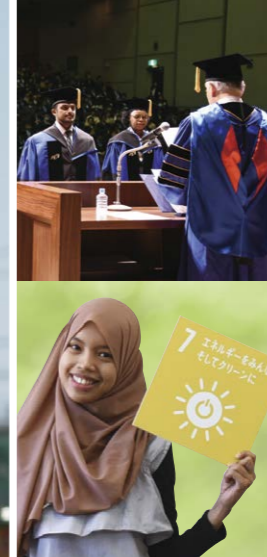


路面電車

夏季には「納涼ビール電車」、冬季には「おでんしゃ」が走り、豊橋の季節の風物詩として親しまれています。



※「のんほい」とは東三河の代表方言＝「のん」…「～ねえ」（今日はいい天気だのん）【ほい】…「おい」「やあ」【ほい、今日は寒いのん】



2019.8 NO.148

天 白



国立大学法人
豊橋技術科学大学
TOYOHASHI
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY



contents

- 02 キャンパス風景
- 04 悲願の勝利!立ち上がる硬式野球部
- 06 天伯之城 ギカダイ
- 08 ギカダイ生の今!「私のSDGs宣言!」
- 10 輝くギカダイ卒業生
- 11 News & Topics
- 12 のんほい広場

一部、学友会の学生より、写真提供いただきました。

キャンパス風景

大学敷地内の北東、EIRISの横に、高さ約30メートルの大きな煙突があります。この煙突は、開学当初の昭和53年に設置され、冬季集中暖房時のボイラー排煙のために使われてきましたが、その役目を終えたため、解体されることとなりました(2019年7月現在)。長い間、ランドマークとして本学を見守り続けてきた煙突の、最後の晴れやかな姿です。





悲願の勝利! 立ち上がる硬式野球部



勝ちたい思いが、部員を突き動かす

「お願いします、勝ちたいんです！」その日、硬式野球部員たちは学長室にいた。「バッティングマシン」の購入を大学に支援してほしいという懇願だった。部員たちが学長に直談判を願い出たのには理由があった。硬式野球部は、2016年の春季リーグ3試合目で勝利して以来、1勝もしていない…。この春引退した学部4年生の部員たちは、1勝もできないまま部活動を終えた。敗因は明らかだった。点が取れない。速球が打てない。それは、部に速球を投げるピッチャーがいないことが致命的であった。加えて、技科大ならではの事情、研究や勉強に忙しく練習時間の確保が難しいこと、また学生の大半が高専からの3年次編入であることなどの環境も影響していた。だが、このまま負け続けるわけにはいかない。部員たちは、意を決して学長室に向かったのだ。

2019年春季リーグ戦、ついに打線爆発!

そして、愛知大学野球春季リーグ第7試合目。これまでの6試合でも敗戦を重ね、連敗数は49に達していた。相手はこの春季リーグで同じく全敗中の名古屋外国語大学だ。甲子園出場経験のある2名を含む名外大打線は強力で油断はできない。だが今日こそは。部員たちの顔には、決意が表れていた。

1回表、ピッチャー安藤（建築・都市システム学課程4年）の好投で0点に抑えた豊技大硬式野球部は、1回裏の攻撃で打線を爆発させた。「バッティングマシン」を使った練習の成果だった。1番徳原

（建築・都市システム学課程4年）がフォアボールで出塁すると、すぐさま盗塁を決める。2番土谷（電気・電子情報工学課程4年）がレフト前ヒット、3番劔持（電気・電子情報工学課程4年）がフォアボールで満塁となる。4番成瀬（建築・都市システム学課程4年）がレフト前にタイムリーを打ち、待望の先取点。ベンチから大きな歓声が上がった。続く5番伊藤（電気・電子情報工学課程4年）、6番安藤がヒットで出塁、7番田辺（機械工学課程3年）のフォアボールで押し出しの追加点、8番那須（応用化学・生命工学課程3年）がセンターへ二塁打を打ちさらに3点追加、その後も9番川崎（機械工学課程4年）のセンター前ヒットと続き、打順は4番成瀬まで回り、この一回一挙に9点を挙げたのである。

「創部以来、記録にないビッグイニングだ！」ベンチから歓喜の声が上がる。それもそのはず、今季リーグ戦ではこれまで、1試合で多くても2点止まり、無得点の試合が半数だったからだ。この9点を守れば勝てる、部員たちの顔に笑顔があふれた。

どんな場面でも仲間を信じ励ます部員たち

しかし、その笑顔は続かなかった。名外大のピッチャーが交代し、2回以降、追加点が取れない。4回に何とか相手のエラーで1点を追加したものの、打線が繋がらなくなった。対する名外大は、3回に2点、5回に1点、6回1点を加え、じりじりと追いついてくる。

9点リードから始まる試合展開は誰もが初めての



経験だ。1点ずつ縮まる点差に、不安が募る。しかし、ベンチから明るい声が途絶えることはなかった。「テンポ、テンポだよ!」「打たせていいよ、守っていけ!」。7回途中まで投げたピッチャー安藤が、肩を押さえながらマウンドを那須に譲った。ベンチでは、監督、コーチも含め全員が常に立ち上がり声援を送っている。那須が2点を失った時、その声援はさらに大きくなった。「いつもどおりで!」「よくばるな、1つずつ!」。その言葉には仲間を支える力がみなぎっていた。

強風の中、力をふりしぼって

8回表、名外大の攻撃でセカンド劔持がライナーをキャッチ、すかさずファーストへ送球し、必死のダブルプレーを見せる。仲間の好守に奮い立ったのも束の間、試合後半から強まってきた風は、まるで台風のようにグラウンドの土を舞い上げ選手たちを襲った。目が開かない、フライが上がればボールを見失う。守備の場面ではその嵐が敵となり、攻撃では、目前に迫る勝利への期待が選手の体を固くし、ホームが遠い。8回を終え、10対8、点差はわずか2点となったが、なんとかリードを守ってここまで来た。こらえてくれ! 念願の勝利まで、あとアウト3つだ。

9回表、名外大の最後の攻撃。緊迫する空気の中、バッターの打球がショートへ向かい、イレギュラーのバウンド。誰もがヒヤリとした瞬間だったが、ショート徳原のグラブが難しい球をしっかりと捕球し、セカンドへ送球、1アウト。キャプテン徳原の



必死のプレーが仲間を鼓舞する。だが部員の体力も気力も限界、さらに1点を失った。もうあとがないピッチャー那須に「バッター集中!」「シンプルに!」ベンチから、内野から、外野からも、声が飛ぶ。その声は強風に吹き消されることなくマウンドに届いた。ピッチャー那須の地面すれすれのアンダースローが部員の想いを乗せて勢いを取り戻した。最後のバッターをショートゴロに打ちとり、3アウト、ゲームセットだ!

部員たちは駆け寄り、ガッツポーズやハイタッチで喜びを分かち合った。その顔は土埃で真っ黒になっていたが、どの顔も誇らしげに輝いていた。そして、拍手で迎える監督とコーチ、ベンチの仲間。ついに悲願の勝利をつかんだのだ。結果は10対9、連敗記録は49でストップした。

連敗を乗り越え、手にした勝利!

多くの部員にとって初となる今回の勝利は、部員の執念が学長の心を動かし、バッティングマシンを購入してもらったから、だけではない。バッティングマシンを使って猛練習したから、でもない。連敗の中でも明るさを忘れない部員たちの気持ち、どんな状況でも仲間を励ます言葉、現状を変えなければと学長室へと向かった熱意と行動力、その全ての経験が、今回の勝利を引き寄せたのだ。バッティングマシンは、硬式野球部にとって、練習道具以上の意味を持った。そして部員たちは、次の目標へ向かって、さらに歩み続けていくに違いない。



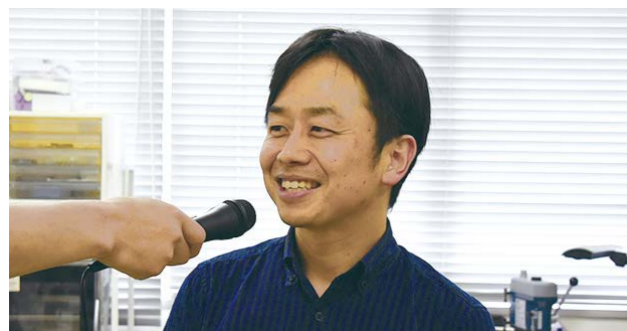
てんぱくのしろ 天伯之城 ギカダイ



豊橋技術科学大学はエフエム豊橋(84.3MHz)とのコラボレーションにより、
本学のアクティビティを広く皆様にご紹介するラジオ広報を放送しています。その名も「天伯之城 ギカダイ」。

<https://www.tut.ac.jp/castle.html> ←こちらより視聴可能

エフエム豊橋の人気パーソナリティ渡辺欣生さんが、毎週、本学のいろいろな研究室、サークルなどを訪問し、
普段、素朴に思う技科大の「なに?なぜ?どうして?」を分かりやすく紹介しています。その中から2つをご紹介します。



電気・電子情報工学系 准教授 河野 剛士

切り紙(Kirigami)が変える エレクトロニクス技術

神経電極とは何ですか。

脳が出す信号をキャッチするため脳に入れる電極です。脳の異常を検知したり脳の仕組みを理解するために使っています。逆に脳に信号を送ることもできるので脳の治療に使うことも考えられます。

脳の信号を測るなら頭に吸盤を付けるという方法もありますよね。

ありますが、より正確なデータを採るには脳の表面に直接電極を付ける方が良いのです。しかし、より精度の高いデータを得るにはまだまだ改良の余地があると考えます。たとえば脳はプリンみたいにやわらかい組織なのに半導体は石みたいな固いものでできています。また、脳は常に拍動しているので伸び縮みしない半導体は脳にとって負担になります。

半導体をゴムで作れば良いんですね。

ゴムだって伸ばすのに力が要ります。それにゴムは伸びても3倍程度ですが、ひじやひざの組織は4倍に伸びます。将来、脳以外にも使うことを考えるなら、それ以上伸びることが求められます。

そういう材料は見つかりそうですか。

材料を見つけるというより、材料に工夫を施すことで伸び縮みを実現させようと思いました。七夕飾りの切り紙細工に「天の川」というのがありますね。紙自体に伸縮性はない

ですが、切り込みを入れることで伸びる形を作れるんです。この仕組みを応用して神経電極を作ってみました。

それで先生の机の上に「天の川」が飾ってあるんですね。ちょっと広げてみましょう。

わーきれい!七夕が来たような気持ちになりました。

この天の川で5倍の大きさになります。切り込みの数をさらに増やせば10倍~20倍ぐらいはすぐ実現できると計算で出ています。

条件としては充分ですが、それを電子回路にするんですね。

集積回路は技科大のLSI工場で作りました。通常シリコン(半導体)を土台に回路をプリントするところを、ラップのような高分子シートにパターンをプリントしました。厚さ10マイクロメートルです。

集積回路はウェハーにしかプリントできないと思ってました。工場のスタッフもワクワクしたでしょうね。

半導体に使われる材料なら、持ち込めばいろいろなものにプリントできます。プリントして切り込みを入れてビヨーンと伸ばしてみたら10倍に伸びました。

もう脳につけてみました?

はい。マウスによる実験で、ヒゲに対応した信号とか、目から入った光に対しての信号とか正確に計測できています。

出来ちゃいましたね。

出来ちゃいました。でもまだまだ改良したいことはいっぱいあります。臓器はいろんな方向に伸縮しますが、我々の神経電極は切り紙の天の川と同じくひとつの方向にしか伸びませんし、体に埋め込めるようにもっと小型化したいですし、さらに改良を重ねて「使える技術」にしていきたいです。

それにしても材料でなく構造を工夫するなんてよく思いつきましたね。

実は4年前のある朝目覚めると当時小4の息子が折り紙で遊んでまして天の川みたいなのを作っていたんです。「これだ!」と思い、すぐ学生と取り組んだのがきっかけでした。

なんと!きっかけは小学生の息子さんだったんですね。今日はありがとうございました。



建築・都市システム学系 講師 小野 悠

ケニアのスラムで暮らす

もともと旅好きだったんですか。

中学時代はホームステイで留学したり、高校2年生のときには一人でトルコに放浪の旅に出ました。その後70か国ほど、アジア・中東・アフリカ・南米をメインに行っています。2014年に都市工学について学ぶ中、アフリカの街の成り立ちに興味を湧き、どっぷり浸かりたいと思いました。近代的な都市とスラムといった富と貧がコンパクトにキュッとまとまっている環境が面白くて知りたかったんです。

「スラム」ってイメージは浮かぶんですが、何か定義はあるんですか。

私は「インフォーマル市街地」と呼んでいるのですが、居住環境が悪い場所、例えば床面積がせまい、水場までの距離が遠いなど、違法に作られた街=インフォーマルな街になっている場合が多いです。

外国人はなかなか住もうと思わない場所ですよね。

都市を学ぶならそういうところに住まなきゃダメでしょうっていう使命感でしょうか(笑)でもさすがに最初はなんていいかわからず仲の良い知り合いの家に泊めてもらいました。3x3mの家に6人、家賃が月1500円、トタン1枚隔ててお隣さん。電気や水道は一応あるのですが違法に引いてあるものでした。

日本で暮らす我々には想像できない環境ですね。

それでも歩いて5分圏内になんでもあるし、治安も良い方と聞いていました。まず子どもたちが私と仲良くしてくれて、最初警戒していた大人たちにも解けこむことができました。

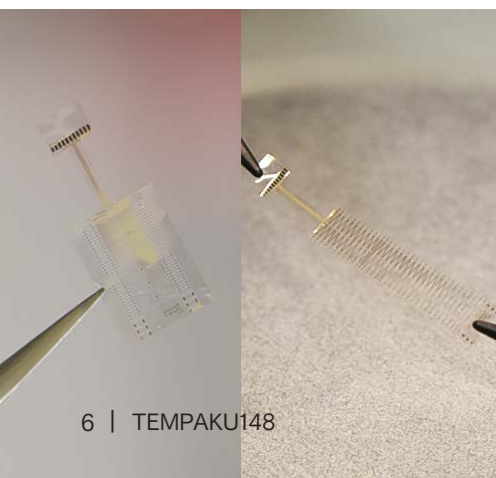
現地では何と呼ばれていたんですか。

私、小柄なので「小さい」という意味の「カニーニ」と呼ばれていました。「カニーニと申します」と自己紹介するたびに大ウケして、得しました(笑)。私の誕生日には、住んでいた長屋でパーティーも開いてもらいました。食事は私が用意したのですが、プレゼントに服を作ってもらいました。

わー!素敵な経験ですね。スラムのイメージが変わりました。

でもスラムって、本来都市は制度や法律に基づいて作られるものなのに、それ無しで既に50万人が住んじゃって、学校も教会もできていて、都市として機能している。これってどういうことなのか。都市工学の存在意義さえ疑うほどわからないことがいっぱいあります。土地の売買はどうなってるのか、敷地境界はどうなってるのか。調査は難航しました。調べようとする住民から警戒されるんです。生活を奪われるんじゃないか、街を壊されるんじゃないかと思うんでしょうね。調査に協力的でない人が多かったです。あと、やはり環境は悪くて、行くたびに誰か知り合いが亡くなってるんです。汚物もひどくて、私も最初のひと月で10キロ痩せました。でも、街としては成り立ってるんです。たしかに「スラムは壊すべき」という考え方はあります。でも撤去することはできても、また別の場所に作られるだけで何の解決にもなりません。環境を整えようと政府が電気水道を供給しようとしたら、それまでスラムで違法な電気水道の供給で食べていた人たちの抵抗にあいました。コトは複雑です。改善のやり方は地域地域で考えなきゃいけない、そんなことがわかっています。

都市工学の知見からの貴重な経験談、ありがとうございます。



ギカダイ生の今!

私のSDGs宣言!

大学での研究や日常生活において、SDGsに貢献できることはなにか、学生に聞きました。



学生という立場ならではの
アドバイス

機械工学 博士後期1年
出原 俊介 さん

研究室では、先輩として日頃から後輩たちの相談に乗ったり、勉強や研究に関するアドバイスをしたりしています。自分の経験が後輩達の役に立てば嬉しいです。



食べきれぬ量だけ
注文します

応用化学・生命工学 学部3年
那須 大翔 さん

飲食店でアルバイトをしていた時、食べ残しが多いことが気になりました。世界には飢饉に苦しむ国もあります。自分が外食する時には食べきれぬ量しか注文しません。

清潔で持続可能な水源を!

建築・都市システム学 博士前期1年
Lim Jia Yen さん
リム ジアエン

インドのスラム街に関する調査研究をしています。清潔で持続可能な水源がない限り、貧困の悪循環が続くことがわかってきました。すべての人々が清潔な水源と衛生的な環境設備を利用できるように、現地のコミュニティとともに、水と衛生に関わるプロジェクトに取り組んでいきたいです。



毎日の生活で節電を
心がけています

機械工学 学部4年
水内 貫大朗 さん

電気の使用は、必要最低限となるよう心がけています。冷蔵庫の中を定期的に整理したり、窓を開け服装を控えるなど、できることを実践しています。



世界中の感染症を
なくしたい

機械工学 博士前期1年
夏原 大悟 さん

ジカ熱やデング熱など、世界中にはたくさんの感染症があります。それらの病原体検出のためのデバイスを研究しています。感染症をなくしてすべての人々に健康を!



平和・公正な世界の実現のため
ユネスコ活動に参加

情報・知能工学 博士前期2年
眞野 千輝 さん

高齢者や子供が、安全・快適に社会参加できるようにサポートする「付き添いロボット」の研究をしています。その研究を通して、平和で公正な世界の実現に貢献したいと思っています。

留学生との会話に、
いつも新しい発見!

建築・都市システム学 学部4年
徳原 峻人 さん

入学以来、留学生と積極的に関わろうと心がけています。同じ研究室のペイカー、一緒に設計課題に取り組んでいるピピ、図書館で会うサニーなど、英語でのコミュニケーションが楽しく、視野も広がります!



まちづくりに関わる
仕事がしたい

建築・都市システム学 博士前期2年
前川 茜音 さん

施設の計画・設計や工事などの仕事を通して、多くの人々がより暮らしやすいまちを作るのが私の夢です。



Think globally,
act locally!

建築・都市システム学 博士後期1年
Pertwi Andarani さん
ペルティウィ アンダラニ

By making our food, our food waste can be reduced. Eating more vegetables than meat, especially red meat, can also reduce our carbon footprint!
(自炊で食品の無駄を減らします。肉よりも野菜を食べることで、二酸化炭素排出量も削減できます)



自分の小さな行動が
社会の福祉向上に!

応用化学・生命工学 学部4年
山口 紗希 さん

献血が趣味です。自分の小さな行動が、他の人の助けになれば良いと思って始めました。一人一人のそういった意識が、社会全体の福祉の向上につながると信じています。



ヒーマンの種もキャベツの
芯も美味しく工夫!

応用化学・生命工学 学部4年
荒井 寿美麗 さん

自炊するように心がけています。手順や効率、栄養を考えながら料理するのはとても楽しいです。食材もできるだけロスが出ないように工夫して使っています。

微生物できれいな水を作ります

応用化学・生命工学 学部4年
Sugar Gantsetseg さん
スガル ガンツェツグ

水中のマイクロプラスチックを微生物で分解する研究をしています。微生物がきれいな水を作る技術で、世界の人々が衛生的な水を使えるようになり、美しい海を守れば良いと思います。



農業や林業をサポートする
ロボットを開発したい

情報・知能工学 博士前期2年
松崎 成道 さん

植物の生い茂った環境でロボットが自律移動するための環境認識手法について研究しています。山間部や森林でも自由に動き回れるロボットを実現し、人手不足や高齢化が問題となっている農業や林業をサポートしたいです。



自転車で世界30カ国を
旅して感じたこと

機械工学 学部4年
溝口 哲也 さん

様々な人種、多様な文化があり、生活習慣や価値観の違いに戸惑う場面もありました。でも思いやりや優しい心は万国共通。皆同じ人間なんだと感じました。



全ての人々が健康を得られる
世界を実現したい

応用化学・生命工学 博士前期2年
篠崎 竜登 さん

再生医療の基盤となる遺伝子操作の高効率化・低コスト化の研究をしています。現技術では治療が難しい方や経済的理由で治療が受けられない方なども含め、全ての人々が健康を得られる世界の実現へ貢献したいと思っています。

カーボンフットプリント(CFP)を
考慮した消費行動が大切

電気・電子情報工学 博士前期1年
本保 雄太 さん

SDGsのゴール達成を考えた時、温暖化対策の裏目になるものがあることを頭に入れておかなければなりません。CFPを考慮して消費を行うなど、個人としてCO₂排出量が少ない(リバウンド効果が低い)行動をとりたいと思います。



視覚を司る脳について
研究しています

情報・知能工学 博士前期1年
及川 達也 さん

私が研究している脳科学の分野は、医学・工学・心理学をはじめとした、多くの分野で培われた知識や技術の集合体です。新しい技術が脳科学を進歩させ、進歩した脳科学が周りの技術をさらに進歩させます。私の研究も将来の合理的・効率的な産業につながれば嬉しいです。



不要な電気はOFF!
節電を心がけます

電気・電子情報工学 博士前期2年
Barorotul Abror さん
パロロツル アブロ

People should save energy by turning off the light for unnecessary thing. We should support the global warming prevention to save our world.
(不要な電気を消して節電するべきです。そして、地球温暖化防止を推進します)



学んだことを
多くの人に伝えたい

応用化学・生命工学 学部4年
Lim Phen Chern さん
リム フェンチェン

SDGs達成のために、人も企業も、ノウハウや技術をシェアすべきだと思います。自分の学んだ様々な知識を多くの人に伝え、共有し、社会に役立てたいです。

室内環境と睡眠の質に
ついての研究をしています

建築・都市システム学 博士後期1年
Wiwik Budiawan さん
ウィウィク ブディアワン

Comfortability in the room makes someone while sleep be good or be quality. The other side, using of air conditioner in the room for to keep the comfortability have to keep energy consumption low.
(部屋の快適さは、睡眠の質を向上させますが、快適性を維持するためのエアコンの使用には、エネルギー消費量を低く抑える必要があります)



SDGsとは

2030年に向けて世界が合意した17の「持続可能な開発目標」です。豊橋技術科学大学は、国連アカデミック・インパクトのメンバーとして、SDGsに取り組んでいます。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう



輝く ギカダイ卒業生



2004年3月
建設工学専攻
博士前期 修了

積水ハウス株式会社
総合住宅研究所
開口・防犯研究開発
グループ 主任

よしだ ともみ
吉田 知未 さん

現在の仕事の内容は何ですか？

住宅の開口部周辺の研究開発を行っています。これまでに、ユニバーサルデザインを考慮した窓や、高断熱な窓の研究開発をしてきました。誰もが使いやすいように考えた窓は、足元のレールによる段差を内外でなくすることで、出入りがしやすいだけでなく、屋内外がゆるくつながった過ごしやすい空間を作り出します。また「この原理」を利用した引手を開発し、力の弱いおじさまやお年寄りの方でも重い窓を軽々と開けやすくする工夫をしました。そのほか、高断熱な窓の研究では、ガラスメーカーと共同で断熱性も防犯性も高く、さらに軽い、という3つの良さを兼ね備えたガラスを開発しました。

大学で学んだことで、仕事に役立っていることはありますか？

住宅メーカーの技術職には建築士の資格が必須です。大学で学ぶ専門の授業は、建築士の資格を取る上でどれも基本となり大切なので、在学中にしっかりと学んでおくことをお勧めします。特に構造力学で苦労している人が多いので、学生のうちに理解しておいたほうが良いです。

また、私は学生時代にロボコン同好会に所属していました。子供の頃から見ていたNHK学生ロボコンで、優勝の常連校となっていた技科大でロボットを作ったのです。これは私がこの大学を選んだ理由の一つでも

あります。ロボコン同好会では、先輩や仲間から回路やプログラム、そして機械的な知識を学ぶことができ、形状を具現化する物づくりの面白さを体感しました。今の仕事では多くのアイデアや知識が必要となりますが、これは建設工学科だけでは学ぶことができなかったと思います。

仕事でのやりがい、今後の夢は何ですか？

住宅は生活の基本と考えており、お客様に幸せに暮らしていただけるように、日々研究に励んでいます。時々出会う当社の住宅に住まわれているお客様から、暖かくて住み心地が良いとか、大きな窓が気持ちいい、などの感想を伺うと、作って良かったな、とやりがいを感じます。また、家の中で最も熱が逃げやすい窓を高断熱にすることで、大開口でも省エネな暮らしが実現でき、地球環境にも貢献しています。今後も、お客様の視点を持ち、当社がリリースした「住めば住むほど幸せ住まい」を提供できるよう、研究開発をしていきたいと思っています。

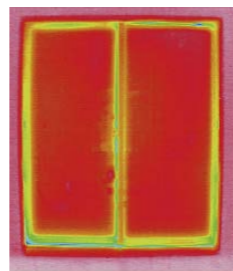
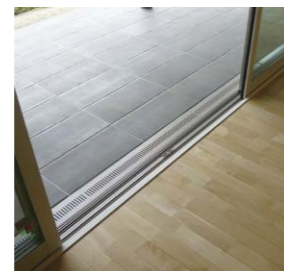
豊橋技術科学大学ならではの良さはありますか？

学部3年から高専卒業生が編入してくることは、他の大学では味わえない良さだと思います。私は1年生から基礎知識を学びながら進級しましたが、高専編入生から、たくさんの良い刺激を受けました。編入生たちは、建築に関する幅広い知識を持ち、感性豊かでアンテナが広い人が多いのが印象的でした。学年の人数も学部3年から3倍に増え、井の中が池の中になったという感じです。このように編入生たちと一緒に過ごす中で、体裁のよい設計図面の構図や表現の仕方、建物を見る視点、デザインの感性など、授業だけでは知り得なかったことを吸収できました。

技科大生へ向けたメッセージをお願いします。

勉強だけでなく、色々なことに興味を持ち経験を積んでください。失敗も大切な経験です。そして、失敗の後に振り返ることで、確認すべきことに気づいたり、別の突破口を見つけたりすることができると思います。

大学の研究室で教授から言われた印象的な一言があります。「医師は失敗しても一人の患者の命に関わるだけだが、建築物の構造計算を間違えると、一度に多くの人の命を奪ってしまう」と。怖い言葉ではありますが、本当にそうだと思います。学生の皆さんも社会に出る時には責任感を持ち、良いものを作って欲しいと思います。



NEWS & Topics

溝口哲也さん（機械工学課程4年）が 自転車でアフリカ大陸縦断達成！

自転車でアフリカ大陸12,000km走破という偉業を成し遂げた溝口さんは、高校生の頃に自転車競技を始め、大学入学後は、トライアスロン部として活動しながら夏休み等を利用してヨーロッパ、アジアなど20カ国以上を旅してきました。そして、「大学最後の挑戦」と挑んだ今回の旅は、南アフリカの喜望峰を昨年10月に出発、ケニアなど8カ国を経て、3月にエジプトのカイロに到達、見事ゴールを果たしました。4月25日には本学講義棟にて「自転車旅報告会」が開催され、数々の美しい旅の写真や動画とともに、困難の連続だった旅での出来事を語りました。また、その生命力あふれる挑戦は卓越した課外活動として高く評価され、学生表彰対象者に決定し、報告会終了後に大西学長から表彰状と副賞が手渡されました。



タンザニアのキリマンジャロ山近くの村にて(写真提供:溝口さん)



エジプトに到達し見事ゴール



報告会後の表彰式にて大西学長と

530（ごみゼロ）運動実践活動を 実施しました。

6月4日に、教職員および学生が参加し、530運動実践活動を実施しました。豊橋市は530運動発祥の地であり、この活動を通して、環境美化および資源の有効活用への意識を高めようとする恒例の行事です。大西学長の挨拶の後、教職員及び学生総勢約1,200名が、キャンパス内およびキャンパス外周道路・周辺県道等、それぞれ割り振られた区域で、約1時間、ゴミ拾いを行いました。



ごみゼロ活動の様子

ロボコン同好会（とよはし☆ロボコンズ） 無念の予選敗退

NHK学生ロボコン2019～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～が、5月26日に片柳アリーナ（日本工学院専門学校）にて行われ、本学のロボコン同好会が出場しました。昨年の同大会で準優勝のロボコン同好会は、昨年の悔しさをバネに、最速最強のマシンを制作し大会に挑みました。前日のテストランでは、出場チーム中最速タイムを出していたものの、当日は、コース上の障害物のわずかな隙間をマシンが通過できないアクシデントに見舞われ、惜しくも予選敗退となりました。



3分間の真剣勝負に挑む部員達



会場の大型スクリーンに映し出される「応援メッセージ」

文部科学省「平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」に本学から5名が選ばれました。

科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に授与される科学技術分野の文部科学大臣表彰に、本学から5名が選ばれました。

○科学技術賞

「機械翻訳システムの社会実装技術の振興」
情報メディア基盤センター 井佐原均 教授、神崎享子 特任准教授

○若手科学者賞

「高精度直接解析による流れと音の連成現象を伴う空力音の研究」
機械工学系 横山博史 准教授
「光干渉型ナノメカニカルセンサによる生体分子計測の研究」
電気・電子情報工学系 高橋一浩 准教授
「磁気的位相干渉を用いた機能性マイクロデバイスの研究」
電気・電子情報工学系 後藤太一 助教



科学技術賞受賞の井佐原教授(右)と神崎特任准教授(左)